

胸を張って

青森県七戸町立榎林中学校

三年 二ツ森 大 夢

「ホームまで見送りに行くよ」

と私は言った。兄は少し作り笑いをしながら

「ここでもいいよ。辛くなるから」

と言った。そして、大きなリュックを背おいガラガラと音を立てキャリアバッグを引っぱりながら新幹線ホームに向かつて歩き始めた。いよいよ兄の出発の時がきた。たくさん言葉を用意していたつもりだったけど、気持ちがごちゃごちゃになって会話にならず、両親の横に立つてとまどっていた。兄は振り向かずに、大きく手を振って階段を一段ずつおりていき、やがて姿が見えなくなってしまった。兄は自分の夢を叶えるために進学を希望して家から離れて寮生活することになった。いろいろ将来について悩んだが、最終的には自分のやりたい事を一番大切に考えて決めた。自分の夢に向かつて一人で頑張ろうとしている兄の姿が輝いて見え、うらやましく思えた。そして、自分の進路を決める時期と重なったので、兄に負けないほどの努力をしようと思ってく思った。このことがきっかけとなり、今まで自分の将来について迷っていたことがふっきれたように思った。

「やるぞ」

大きな声で、青空を見上げて叫びたい気持ちになった。

私の家は養豚農家だ。子供の頃から豚舎に行って両親の手伝いをするのが何より楽しかった。母豚、雄豚、妊娠豚、赤ちゃん豚、子豚、肉豚、合わせて数千頭を飼育している。毎日の仕事は朝がとも早く両親は朝四時には起きて豚舎に行く。冬は雪のために除雪していない道を自動車が行けないので雪をこぎわけて歩いて行く時もある。なかなか大変なことだと思う。また、赤ちゃんが生まれる時がさらに大変だ。ほとんど出産は夜が多く付きっきりの仕事になる。生まれたての子豚はとても弱く、生まれてすぐ母乳を飲まないと死んでしまうので目が離せない。弱く生まれると、心臓マッサージをして助けてあげる時もある。約四時間ぐらいいで出産が終わると、十二、三頭の赤ちゃんが元気におっぱいを飲んでいく様子、命のすごさを感じる。母は赤ちゃん豚を見ながら、こう思うそう。

「どうか、この命を大切に育てさせて下さい。命を守る事が出来ますように」

私は命を守り育てる仕事に魅力を感じ、将来の職業にしたいと思った。思いやりと手間を精いっぱいかけると絶対に命は立派に育ち、喜びを感じることが出来ると思ったからだ。心の持ち方で失敗も成功も出来るのだから努力のしがいがあり、やりがいもあると思う。この気持ちを忘れずにこれからにつなげていけるようにしたいと思う。

夏休みは、午前中は学習、午後は養豚の手伝いをした。父は私の担当の仕事を決めてくれ、責任を持つことの大切さを教えてくれた。自分の豚を持つことが出来てとてもうれしかった。一頭一頭でいねいに見て、病気はしていないか、えさは食べているのか、部屋の状態はどうかなど、友達のように話しか

けながらチェックと仕事をした。日ごとに大きくなるのを見ると自分も元気をもらって楽しくなり、ますます夢が大きいくふくらんだ。この夢を現実にするために今自分がやるべきことに向き合い成長していきたい。

今まで、養豚という職業は、臭くて汚く、ちょっと恥ずかしいと思い、なかなか人には話せなく、職業としては迷っていたが、両親や兄の姿を通して、ついに自分の気持ちをしっかりと伝える決意がついたように思う。そしてこの作文で自分の気持ちを文字に表わすことが出来て、弱い自分が少し成長することができた。

いつか両親と一緒に青森県でブランド豚を作りたいと思う。簡単なことではないが、多くの知識を身に付けて自分を磨き、絶対夢を叶えたいと思う。

作文を書くに当たって

夏休みの高校体験入学を終えて、自分の将来に迷っていたときの気持ちを素直にそのまま文章にしようと思ってきました。自分にとって決断する大きなきっかけとなった作文です。小さな命を心を込めて大切に守り育てることのできる自分になりたいと思います。夢を必ず叶えるために努力します。